

千葉工業大(習志野市)は来月4月、大学院「デザイン&サイエンス研究科(SDS)」を開設する。従来の学問の枠組みにとらわれない「脱専門性」を教育理念に掲げ、外国人や社会人を積極的に受け入れる予定だ。

科名は、政策などを設計する「デザイン」と、状況や背後の原理を解析する「サイエンス」を両軸に、現実社会の課題解決に取り組むことを示す。同大の伊藤穰一学長がかつて所長を務めていた米マサチューセッツ工科大メディアラボの研究者が唱えた理念という。

SDSでは伊藤学長をはじめ、国内外の第一線で活躍している研究者8人が教員を務める。うち4人は外国人だ。「人工生命」を研究する岡端起・筑波大准教授、先端的なアートデザイン・のスピッツニチー氏のほか、法律、複雑性科学、デジタル文化、都市デザイン、心理学など様々な分野の専門家を集めた。

講義以外にも、社会課題解決の手法を学ぶため、学

生がチームを組んでプロジェクトを遂行する授業も実施する。

講義や研究活動はすべて英語で行う。千葉工大によると、国内では沖縄科学技術大学院大学などごく少数に限って実施されているという。

募集定員は、修士課程が15人、博士後期課程が5人。8月に1回目の入試が行われ、新入生の一部が内定した。経済成長への道を探るブータンからの留学生や、地方都市の活性化について研究する大学4年生、金融取引デジタル化の推進策を

思考中のIT企業社員など、問題意識を持った学生が多いという。

准教授として着任する予定の小島大樹・東大大学院特任研究員は「生成AI(人



「ほかの大学院にはできない取り組みになる」と語る小島さん。SDSの准教授として着任する(千葉工大で)

工知能)などの登場で、数年で社会の景色が大きく変わる時代になった。動きの激しい世界に対応できる人材を育てたい」と語った。

健康寿命延伸へ催し

柏TTCなど 体力測定や栄養相談

柏市の「吉田記念テニス研修センター」(TTC)と中核病院「名戸ヶ谷病院」は、加齢による心身の衰え「フレイル」の予防体操や「フレイル」の体力測定、栄養相談などの健康イベントを開催した。高齢者の健康寿命を延ばそうと、住民の高齢化が進む市北部の大規模住宅地「柏ビレジ」の近隣公園で行った。

1981年に入居が始ま



「陸軍防空学校」のジオラマを来場者に解説する市原さん(奥)。(10日、千葉市稲毛区で)

する。展示会が同区小仏台の「アトリエくすの木」で開かれている。

陸軍防空学校は1938、45年に置かれ、飛行機を撃ち落とすための高射砲を撃つ訓練が行われた。展示では、施設を再現したジオラマや、学生の生活がうかがえる写真などを通し、同校がどのような場所だったかを解説する。

戦後には、戦地から戻らない軍人の安否確認などを行う機関「留守業務部」が置かれ、引き揚げ者向けの住宅や、現在の県立千葉女子高の校舎が

16日まで展覧会 ジオラマなどで

同市子安小学校が、主として、知る、こまめに、かけて、いっ、16日

った柏ビレジには約1500戸に約4000人が暮らす。65歳以上の高齢化率は約60%に達し、住民の健康維持が課題となっている。



社会貢献活動の拡充を検討していたTTCは柏ビレジの自治会と協議してイベントを10月25日に開催。住民らが体力測定とフレイル予防体操などに参加した。名戸ヶ谷病院は、高齢者

の2・0〜2・5%が罹患するという特発性正常圧水頭症の疑いがある人の発見に留意した。脳神経外科の大池涼医師は「地域の方々と健康づくりを考える貴重な機会。予防の大切さを共有できた」と語った。

TTCは同市出身で国民栄誉賞に輝いた車いすテニスの国枝慎吾さんが練習拠点としていたことで知られる。TTCの松葉克也所長は「これまで高齢者や子供向けのテニス教室などを開いてきたが、体を動かすだけでなく、医療機関と協力し、間口の広い地域貢献を始めたかった」と語った。